

平成25年度研究成果報告書《平成25年度教育課程研究指定事業》

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道
学校名 (生徒数)	ほつかいどうおびひろのうぎようこうとうがっこう 北海道帯広農業高等学校 (593人)		

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：北海道帯広市稲田町西1線9番地

電話番号：0155-48-3051

研究内容等を掲載しているウェブサイトのURL：<http://obino.hokkaido-c.ed.jp>

【研究成果のポイント】

- 研究課題番号：4 高等学校
- 研究対象教科等：農業
- 研究のキーワード：プロジェクト学習，ネットワーク会議，国際化
- 研究成果のポイント：

座学と実験・実習を密接に関連付けた指導方法には，農業教科の主な科目におけるプロジェクト学習を展開することが有効である。校内研修会等における内部評価，教員及び生徒における授業評価及び自己評価，ネットワーク会議における外部評価による検証を踏まえることが重要である。また，国際感覚を身に付けるための事業を通して，国際化を見据えた農業経営者育成を目指している。

【研究の目的， 研究内容】

(1) 研究主題

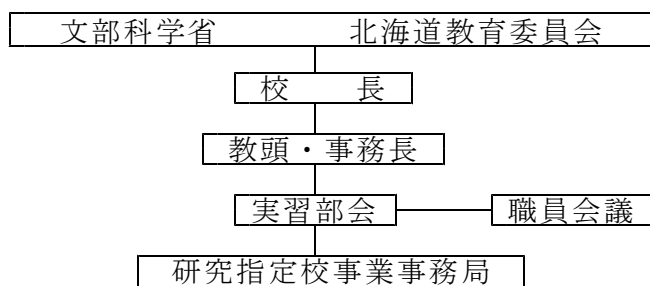
「将来の地域農業を支える国際感覚を身に付けた農業経営者育成に関する研究」
～座学と実験・実習を密接に関連付けた指導方法の工夫と改善～

(2) 研究主題設定の理由

本校は，農業科学科・酪農科学科・食品科学科・農業土木工学科・森林科学科の5学科を設置している。農業科学科と酪農科学科においては，農業経営者養成を目標に実践的な農業教育を実施し，高校卒業後もしくは大学等への進学後に農業自営に就く生徒が約50%となっている。しかし，生徒個々の適性や能力に応じた主体的な学習活動を推進することや，生徒の学習状況を適切に評価し，指導と評価の一体化を図ることが本校の課題となっている。

そのため，本研究では，国際化を見据えた農業経営に必要な基礎的・基本的な知識・技術の習得，思考力・判断力・表現力等の育成や主体的に学習に取り組む意欲の向上を図るための授業改善を目的とした。

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組の経過

平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> ・農業教科の主な科目におけるプロジェクト学習の展開 ・活用しやすいシラバス，観点別自己評価を入れた記録簿，評価規準の作成 ・国際感覚を身に付けるための事業 ・効果的な座学と実験・実習を行うための研修会 ・ネットワーク会議を組織した事例報告会やパネルディスカッションの開催
--------	---

(5) 具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

- ア 科目「農業と環境」のシラバス，記録簿，評価規準の作成
- ・生徒が活用しやすいシラバスを作成して学習内容の明確化を図った。
 - ・観点別自己評価を取り入れた記録簿を活用し，生徒の学習意欲の向上を図るよう

に工夫した。

- ・観点別評価規準に基づき生徒の学習状況を適切に評価することで、指導と評価の一体化を図った。

イ 農業学習のガイダンスとなるプロジェクト学習の実践

- ・科目「農業と環境」においては、設定した課題を解決するための実験・実習や調査・観察などを通して、生徒の興味・関心を高め、農業の基礎的・基本的な知識や技術の習得を図った。

ウ 地域農業の課題を取り入れたプロジェクト学習の実践

- ・科目「作物」、「畜産」、「総合実習」等においては、地域農業の課題を取り入れたプロジェクト学習を実践した。
- ・農業技術の確実な習得のため、体系的な学習ができる教育課程の改善を図った。

エ プロジェクト学習で習得した知識や技術の再結合化を図る取組

- ・課題研究における成果等について、地域の農業生産者や農業関係機関の方々を招いての意見交換会を定期的実施した。

オ 効果的な座学と実験・実習を行うための教員の研修会

- ・公開授業、校内研修会や研究協議を通して、農業教育におけるプロジェクト学習法の適切な指導方法を確認した。

カ 国際感覚を身に付けるための事業

- ・国際化を意識させるために、海外委託実習報告会、海外に関する講話やJICA研修生との交流会を実践した。

【研究成果とその意義等】

(1) 研究成果

ア 成果

- (ア) 科目「農業と環境」のシラバス、記録簿、評価規準を作成し、観点別評価規準に基づき生徒の学習状況を適切に評価することにより、指導と評価の一体化を図り授業改善を図ることができた。
- (イ) 農業教科の基礎的な科目と位置付けられる「農業と環境」において、農業学習のガイダンスとなるプロジェクト学習を展開して、確かな学力を身に付けさせることができた。また、農業教科の主な科目において、地域の農業課題を取り入れた学習を展開し、その成果を地域の農業生産者等へ発信することにより、言語活動の充実や学習意欲の向上を図ることができた。
- (ウ) 国際感覚を身に付ける事業において、海外の地理、歴史や文化に興味・関心を高め、国際化を見据えた農業経営に必要な知識・技術の習得を図ることができた。

イ 課題

- (ア) プロジェクト学習における指導方法の改善と充実を図る必要がある。
- (イ) 国際感覚を身につける事業の定着を図る必要がある。

(2) 研究成果の意義等

農業教科の主な科目におけるプロジェクト学習は、座学と実験・実習を密接に関連付けた指導方法として重要である。また、地域の農業課題を取り入れた学習を展開し、その研究成果を地域の農業生産者等へ発信することは、思考力・判断力・表現力の育成とともに、地域から信頼される農業高校のあるべき姿として重要である。

(3) 指定期間終了後の取組

Webページにより研究成果を情報発信するとともに、報告書を作成し北海道の農業高校に送付することにより、研究成果の意義等の共有化を図る。また、今後も農業生産者、大学や専門機関の研究者、保護者などで構成されるネットワーク会議を通して、関係機関と一層の連携を図り、地域農業の振興に努める。